

Q2 「第7巻」25ページの「Q2&A2」で、

Q2 同一類魂内の霊体には、霊格・霊力の差はあるのでしょうか？

A2 恒星霊以下の類魂内では、多少の差はありますが、銀河霊の類魂内では、基本的に差はありません。それは、なぜか？ 銀河霊は、罪を償<sup>つぐな</sup>い合う方針で結ばれている、つまり、天罰も褒美・福德も類魂たちと分かち合う霊体ですから、地上でAさんが罪を犯した場合、その天罰を霊界の類魂の中で、その天罰に最も耐えることが可能な霊体（＝霊力・霊格が高い霊体）が引き受けることになります。

このように、何の罪もない徳の高い類魂たちが、己の犯した罪を償<sup>つぐな</sup>ってくれていた光景を霊界に戻ってから見るからこそ、Aさんは、反省の心が強く促<sup>うなが</sup>されるのです。

一方、地上でAさんが善行を行った場合、その褒美・福德を霊界の類魂の中で、その褒美・福德を最も必要とする霊体（＝霊力・霊格が低い霊体）が受けとるため、類魂内の霊力・霊格には、基本的に差がないのです。

と書かれています。

一方、「第7巻」118ページの「Q19&A19」で、

最後に補足しますと、皆様は、確かに1000億の2乗数の銀河霊の一人です。ですが、皆様が地上時代、戦争（＝空爆など）を止めるよう多くの人々に呼びかけたにも関わらず、当該戦争行為の報いを受け、たとえば、顔に大火傷<sup>おおやけど</sup>を負って生活する来世を送ることになるとしたら、戦争を止めるよう呼びかける（勇）気が萎<sup>な</sup>えてしまいます。

そうなる、地上世界に平和が訪れるのが遠のいてしまいます。

ですから、戦争を止めるよう呼びかけた人たちは、当該戦争行為の罪の報いを受ける対象者からは除外されることになります。

と書かれています。

つまり、「Q2&A2」では、「①地上で A さんが罪を犯した場合、その天罰を霊界の類魂の中で、その天罰に最も耐えることが可能な霊体（= 霊力・霊格が高い霊体）が引き受けることとなります」と書かれ、「Q19&A19」では、「②戦争（=空爆など）を止めるよう多くの人々に呼びかけて徳を積んで、霊力・霊格が高い霊体になると当該戦争行為の罪の報いを受ける対象者からは除外される、つまり類魂が地上で犯した天罰（戦争の報い）を受けない」と書かれていて矛盾するのではないのでしょうか？

## A2

ネイム これも、私がお答えいたします。

Q2は、とてもデリケートな問題を抱えていますので、皆様に得心していただけるよう、人類の皆様の代表選手である Bさんと神様との対話形式によるたとえ話でご説明いたします。

神 Bさん。Bさんのお腹なかに宿っている子どもは前世、空爆して大勢の人々の手足を奪い、そして顔に大火傷を負わせました。この罪の報いによって、手足の機能が没収された状態で、かつ、顔に大火傷を負って過ごすこととなります。

B 神様、子どもに代わって、私とその罪の報いを受けますので、どう

か子どもが健康で過ごすことができるようお願いいたします。

ネイム 類魂同士の絆きずなは、地上世界の家族愛・絆よりも深いですが、このような B さんの言動げんどう・心の紋様もんようが、「①地上で A さんが罪を犯した場合、その天罰を霊界の類魂の中で、その天罰に最も耐えることが可能な霊体（＝霊力・霊格が高い霊体、このたとえ話の中の母親）が引き受けることになる」に相当します。

B 神様、よくよく考えたら、手足の機能が没収された状態で、かつ、顔に大火傷を負って過ごすことは、私には耐えられる自信がありません。このような罪の報いかいひを子どもも私も回避できる方法はないのでしょうか？

神 「虹の掛け橋」の複数箇所せきしごんりつで書かれているように、「赤～紫金律」の実践によって徳をたくさん積みめば当該報いを回避できます。

特に「空爆（戦争）を止めるよう呼びかけること」です。しかし、「空爆（戦争）を止めるよう呼びかける行為」は、殺されたり（＝投獄とうごくされたり）、顔に大火傷を負ったり、手足を切断したり、失明したり、家を失ったりすることと同等の苦しみを伴います。

でも、勇気を出して「空爆（戦争）を止めるよう呼びかけた」者には、膨大な福德ぼうだいが齎ふくとくされ、霊界と来世（地上生活）は、楽園で過ごすことができます。

ネイム 上記、神様の回答が「②戦争（＝空爆など）を止めるよう多くの人々に呼びかけて徳を積んで、霊力・霊格が高い霊体になると当該戦争行為の罪の報いを受ける対象者からは除外される、つまり類魂（家族・お腹の子どもを含む）が地上で犯した天罰（戦争の報い）を

受けることがない」に相当します。

最後に補足したいのは、皆様が、どれほど言葉をつくして、「空爆（戦争）を止めるよう呼びかけた」としても、皆様の<sup>わじゅつ</sup>話術には限界がありますので、「虹の掛け橋」（＝創造主）の説明力に頼る（＝「虹の掛け橋」を広める）のが<sup>けんめい</sup>賢明だと思うニャン。